

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 依知中 学校

厚木市教育委員会の基本目標		1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】		校長名 安藤 史
学校教育目標		学校経営の方針		
未来の創り手となる「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けた生徒育成		「創造・前進・友愛」 常に創意工夫し、新しいことに挑戦していくことで高め合える学校を目指す。また、他者を認める心を育て、誰もが笑顔でいられる学校を目指す。 ①全職員による協働体制に基づき、チーム一体となった学校づくりを推進する。 ②創造性を持ち、未来を切り拓き、たくましく生きる力を身につける生徒の育成を図る。 ③生徒一人一人を大切にし、多様性を尊重し、誰もが笑顔で楽しめる仲間づくり、環境づくりを心がける。 ④子ども、学校、家庭、地域が互いに相互受発信に努め、連携協力しあい、信頼関係を構築し、四者一体となった学校づくりを推進する。 ⑤定期的な学校評価による組織的・継続的な教育活動の改善を推進し、常に向上し、発展できる学校を目指す。		
今年度の重点目標				
①授業改善を中心とした学習指導の充実 ②インクルーシブ教育を継続し、自他ともに大切にできる人権教育の推進。 ③保護者、地域との連携を深め、子どもたちが地域を愛し、環境を守ろうとする地域学習、環境教育の推進。				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標に向かって活気ある学校づくりができています。	1・2・3	教育活動全般	保護者の8割近くにてできていると評価していただいたが、わからないという回答が多く、学校の取組が保護者に伝わっていないことが考えられる。	グランドデザインをシンプルなものに変え、生徒や保護者に学校教育目標とそれに向けた取り組みをわかりやすく伝える。
情報を発信し、「地域・保護者に開かれた学校」である。	3	・学校だよりの発行 ・ホームページによる発信 ・スクリレによる情報提供	保護者の9割以上にできているという評価をいただいた。今後も効果的に活用していく。	活用できない家庭への支援を考える。日本語の理解が難しい家庭には学校からの通知の翻訳の仕方を周知する。
生徒が学習に意欲的に取り組んでいる。	1	・授業改善の研修 ・「学習頑張ろう月間」の取組 ・放課後学習会やサマースクールの取組 ・学習コーナーの設置	生徒のできているという評価が8割を超えているものの昨年度よりも低くなっている。また、保護者の評価も下がっている。「学習頑張ろう月間」(定期テスト前に昼休みと放課後に行う)学習会には多くの生徒が自主的に参加し、参加した生徒からは学習会への満足度も高い。今後は自分からは参加しない生徒が参加したいと意欲を持てるような取組を工夫していきたい。	生徒の意見を取り入れ、「学習頑張ろう月間」の学習会を定期テスト前だけでなく通年を通して毎週月曜日の昼休みに行うこととする。月曜日の昼休みには委員会活動や行事前の取組(体育大会種目練習や合唱練習など)も入れずに学校全体で学習に向かう雰囲気を作っていく。
生徒が「STEP UP!!家庭学習」の目標時間以上家庭学習をしている。	1	・週末課題の取組 ・「STEP UP!!家庭学習」の生活ノートへの掲載や周知	例年の傾向であるが、3年生は昨年の2年生の時に比べ家庭学習時間が大幅に伸び、目標時間を達成している。2年生は1年生の時に比べ大幅に減り、目標を達成できていない。部活動と学習が両立できるように、時間の使い方を考えさせるとともに学習に向かいやすい課題の設定や家庭学習の進め方について助言するなど、教員側も意識していくことが必要である。	「STEP UP!!家庭学習」の目標時間だけを意識させるのではなく、「家庭学習の意義」「具体的な学習の仕方」「頑張っている生徒・成果を上げている生徒の取組の紹介」を学級や授業で伝えることを折に触れて行い、学ぶ意欲につなげていく。

生徒が「学級に居場所がある」と感じている。	2	・依知中スタンダード「学級経営」 ・心の相談アンケート(紙・オンライン) ・教育相談 ・生活ノート(日記)の活用 ・週1回のコーディネーター会議 ・他機関との連携 ・MVP表彰	生徒のできているという評価が9割を超え、保護者の評価が8割近くある。心の相談アンケートにオンラインで回答できる期間を設けた。回答者の人数は多くないが、一人でも必要と感じる生徒がいるのならば成果があったと思われるので次年度からも継続していきたい。教室になかなか入れない生徒で学校評価に未回答の生徒がいるので、その生徒たちの思いを聞く場面を設けていきたい。	生徒の学校評価アンケートでの意見から現在教員が選出しているMVP表彰に生徒の推薦も取り入れていく方向で検討している。また、オンラインを使った心の相談アンケート、週1回のコーディネーター会議でミニケース会議を行うことを次年度も継続していく。
生徒は思いやりのある言動ができるように意識している。	2	・生徒会本部による「依知桜の木」の取組 ・ゲストティーチャー道德による人権意識の涵養 ・総合的な学習の時間でのESD推進	生徒はできているという評価が97%と非常に高く、保護者の評価も8割を超えている。生徒会本部のお互いを認め合う「依知桜の木」の取組、「次の人のことを考える」といったキーワードを使って他者に対する言動を考えさせるESDの取組が成果を上げていると思われる。その反面、無意識に他者を傷つけてしまう言動が見られることもあるので自分の言動を客観視させる指導も進めていく必要がある。	ESDの取組を学校全体のものとして、今年度以上に意識して取り組む。学習、学校行事、委員会活動の関連をESDカレンダーとしてまとめ、生徒の目に触れる場所へ掲示するなどしていく。
地域の行事や活動に今後参加したいと生徒が思っている。	3	・学校運営協議会との連携 ・地域行事のボランティア参加への意識付け ・地域の人との行事の共催	地域学校協働活動のモデル地区として3年目となり、コロナ禍も明け、地域行事が復活することで多くの行事への生徒の参加が増えてきている。学校評価では肯定的な評価は生徒で5割、保護者で4割ではあるが、地域美化清掃には全校生徒の1/3以上が参加し、その他の行事へのボランティア参加も多い。地域との共催で行った「ふれあいタイム」という行事は地域の方からも好評であった。	生徒に地域の一員であるという意識を持たせ、無理のない範囲での地域参画を進めていきたい。次年度は災害時の対応についても地域と協議しながら実際に役立つ計画づくりを進めていく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
学校運営協議会の委員の方から教職員の授業中の言葉遣いについて、「生徒とのフレンドリーさ」が気になるという意見、ICTの活用が教員によって使い方に差があるようなので研修が必要なのではないかという意見をいただいた。また、キャリア教育の進め方についてのアイデアをいただいた。雨漏りやエアコンのない教室など施設面で気になる点への質問があり、学校の対応について説明した。授業参観で生徒の様子を見ていただき、熱心に学習していることを評価していただいた。また、地域の人と共催で行った「ふれあいタイム」がよかったと評価していただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
今年度、①学習指導の充実②人権教育の推進③地域学習、環境教育の推進の3点を重点項目とした。令和4年度から進めている校内研の取組で教育活動をESDの視点で見直し、「すべての生徒にとって学習しやすい環境づくり」や「次の人のことを考える意識の涵養」について全教職員で取り組んできた。しかし、ESDがすべての教育活動に関わってくるため重点としての意識が薄くなったように思われる。令和6年度は「人権教育」を重点として、多様な意見を尊重しあらゆる生徒が生き生きと活動できる「生徒が主体となった学校づくり」を進める。そして、「未来の創り手」を育てるという学校教育目標達成に向け、教職員だけでなく、生徒や保護者、また地域の人とも目指すべき学校像・生徒像を共有し、皆で依知中学校を創っていきたくて考えている。				